

地域の概要



【指宿市北西部に位置する仮屋地区（池田校区）】

- ・高齢世帯が多い
- ・高齢化率 63%
- ・買物や移動などの生活課題あり

取組のきっかけ

生活支援コーディネーターが地域資源開発の取組みとして、地域内の困りごとを地域内で解決する有償ボランティアの組織化について地区へ提案したところ、困っている高齢者を支える仕組みを創りたいとの希望があり、本市で初めて実施することとなった。

取組の目的

- 日常生活の中での困りごとの支援
- できる時にできることを支援し気軽に頼める関係づくり
- 見守りを兼ねたコミュニティづくり
- 高齢者が担い手として役割と生きがいを持ち健康長寿につなげる

これまでの経緯

年・月	出来事
令和3年10月	生活支援コーディネーターから地区へ取組みを提案。
令和3年12月	視察研修やワークショップ（ニーズと手伝えそうなことを出し合う）を実施。
令和4年1月	ワークショップの意見を踏まえた規約及びチラシ案を検討し作成。
令和4年2月	担い手の募集と勉強会を実施。公民館役員会へ規約案などについて説明。
令和4年3月	地区総会で提案し、住民の同意を得る。
令和4年4月	発足式
令和4年5月	利用申込み開始。老人クラブ連合会に発足及び活動内容等について紹介。
令和4年6月	近隣校区の見守りグループ構成員に発足及び活動内容等について紹介。
令和4年7月	のぼり旗作成。開始後のニーズ状況について地区と協議。
令和5年4月以降	気になる高齢者宅を訪問し、おたすけ会の説明やマッチングを行う。

活動の概要

仮屋地区では、高齢者などが日常生活において、ひとりでは対処できない困りごと（ごみ出し・買物・草むしりなど）を支援するために、地区住民による有償ボランティアを行う互助組織を構築し、生活支援を実施している。

〔組織〕

発足：令和4年4月

組織構成：「仮屋おたすけ会」15人 会長・副会長・支援員・見守り委員
（公民館長・民生委員・老人クラブなど）

〔利用人数・利用者負担〕

利用人数： R4年度 1人
R5～6年度 なし

利用者負担： 支援員1人あたり 30分 200円
以降、30分ごとに200円（計2時間以内）

〔活動に関わった人・団体〕

生活支援コーディネーター、市、社会福祉協議会、仮屋地区

取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCと定期的な情報共有
- 第1層協議体で事業説明

〔SCとしての役割〕

- 地区への困りごとに関する聞き取り
- 有償ボランティア組織の活動支援
- 社協広報紙やホームページで活動周知



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 戸別訪問し、些細な困りごとを聴きながら、身近で気軽に使える支援であることを説明することで住民の理解を深め、利用につながりやすい。
- 顔の見える身近な地区内で安心して支援が受けられる。

〔課題〕

仮屋地区の住民に「仮屋おたすけ会」への理解と気軽な活用を促すため、戸別訪問による働きかけを行っているが利用者がいない。地区住民の高齢化により、今後の支援体制の存続が懸念される。